

## 藤井寺市教育振興基本計画（素案）についてのパブリックコメント手続実施結果について

### 1. パブリックコメント手続実施状況

#### (1) 意見募集期間

平成28年4月4日（月）～平成28年5月6日（土）

#### (2) 提出者数及び件数

- ・提出者数 1名（うち要件等非該当数0名）
- ・件数 7件（うち要件等非該当数0件）

### 2. お寄せいただいたご意見の概要と市の考え方

	ページ	項目	お寄せいただいたご意見の概要	ご意見に対する市の考え方
1	1	第1章 計画の策定 2.計画の位置づけ	「市の第5次総合計画との整合も図る」とありますが、「公共施設等総合計画」との関係もありますね。それには施設保有量を30年間で15%縮小するとあります。「必要性の低い施設は積極的に統廃合」とし、説明では幼稚園の例が上がりました。市の責任で幼小中学校教育を行う事を重視してください。	「教育振興基本計画」「第5次総合計画」「公共施設等総合計画」の整合を図ってまいります。ご指摘いただいたご意見も参考にさせていただきます。現時点では、統廃合ありきという考え方は持っておりません。
2	39	第4章 基本方針 9 幼児教育の充実を図ります。	現状と課題で、「保護者のニーズは多様化している。本市においては市立幼稚園以外の施設において教育・保育に対する需要が増加していることが、市立幼稚園の就園率減少の原因である」とされていることについてです。 市立幼稚園の園児の減少が市立以外の施設の存在にあるのはなぜか、検証されていない。保護者のニーズが多様化しているといいながら、それにどのように応えてきたのですか。	市立幼稚園は、各小学校に併設され、幼小連携の下、幼稚園教育要領に則った保育を実践しています。保護者は、家庭の実態に合わせ保育所、市立幼稚園、私立幼稚園等が持つそれぞれの良さや制度も踏まえ、幼児教育の場として就園機関を選択してこられました。 市立幼稚園4歳児の就園率については、7園平均して平成23年度までは、4～5割、平成24年度以降は3割台、本年度は3割を切った状態です。保育料が私立幼稚園に比べ安

			他の施設と教育内容に差があるのですか。平成2年に2年保育にして以降、預かり保育、3年保育を市立幼稚園でも実施してほしいという要望は多くなっています。それに応えなかったのが最大の原因ではないですか。	いことも就園率維持に一定の影響があったものと思われま す。 近年、少子化、共働き家庭の増加という社会情勢の中で、午後7時頃まで保育ができるような保育所・保育園を希望する家庭が増加し、待機児童問題も生じている状況です。また、平成27年4月から子ども子育て支援新制度がスタートし、保育料については基本的に私立も公立も同様に扱われることになりました。こうした背景が市立幼稚園の就園率低下につながっているものと思っています。 市の財政状況も考慮する中で、まずは、幼小連携とともに地域に根差した市立幼稚園の良さを伸ばすよう取組みを進め、本市の幼児教育の充実を図りたいと考えています。
3	40	第4章 基本方針 9 幼児教育の充実を図ります。	今後の方向性で、「就園率の低下が今後さらに進み、集団保育の効率が不十分となる場合は・・・統廃合を検討する」となっています。就園率の低下がさらに進む要因は何か分析していますか。預かり保育はすぐに始めてください。3年保育も早期に必要です。「公立幼稚園に3年保育がないから行かせられない」と保護者の声です。道明寺こども園と他園との格差を少なくしてください。この（案）では、園児の減少を待っていて、集団教育の効果が上がらないからと統廃合をするとしか読み取れません。統廃合ではなく幼児教育を充実させてください。	就園率の低下については前述のとおりです。保育料が基本的に私立も市立も同様に扱われるということで、市立も私立と同様の教育内容やサービス内容にするという考え方もありますが、市立としては、特に市立幼稚園の果たす役割という視点から、義務教育へのスムーズな移行というところに重点を置いています。例えば、幼児の知的好奇心による発展的な保育の展開、望ましい基本的な生活習慣の定着、道徳性の基盤づくり、障がいのある子どもとの関わり、小学生との様々な交流を通じた豊かな人間関係づくり等の活動を重視しています。現時点では、4、5歳児の2年保育の中で、このような保育内容の充実を図っています。市立幼稚園の預かり保育については、道明寺こども園の実践を踏まえ、今後検討したいと考えています。もちろん、統廃合ありきという考え方は持っておりません。
4	45	第4章 基本方針 11 教育環境の整備を進めます	老朽化した施設の整備が必要なことは言うまでもありません。子どもが減少傾向にあるのはそのとおりです。しかし、「1学年単学級が常態化する場合・・・統廃合や校区再編・・・」としています。統廃合を論じるとき、1クラスの人数の適正	学級編成の基準は法律で定められており、1年生が35人、2～6年生は40人です。2年生については、大阪府の措置により35人学級となっています。現在、学級数による教員定数とともに課題に応じて加配する加配定数があります。市

			<p>はどうかと検討されていますか。この（案）を通じて1回も論じていません。現状は1,2年生で35人、それ以外は40人です。子どもたちの生活を取り巻く環境は、家庭環境、経済格差、学習内容の広がりや量の多さなど多岐にわたって困難を抱えています。高校進学に際しては学区や評価の変更もあります。</p>	<p>教育委員会としては、今後も加配定数の獲得に全力を尽くすとともに、35人学級の実現に向けては、今後も国、府に強く要望していきたいと考えています。</p>
5	7	<p>第2章 本市の教育の概況 （2）市立小学校小学校（3）市立中学校</p>	<p>少人数学習について、これには一定の評価をしていますが、今必要なのは少人数学級ではありませんか。教師が児童・生徒一人一人に寄り添い、人格を認めあう教育環境をつくる事が必要です。1クラス30人、25人学級でそれを実現する事です。現状と課題の項にも現れています。</p>	<p>教師が児童・生徒一人一人に寄り添い、人格を認め合う教育環境の大切さは言うまでもありません。クラスの人数の多少にかかわらず、教師が求めなければならないことです。確かに、クラスの人数が少なければ、教師と子どもが触れ合う機会は多くなることにはなりますが、人数が少なければ実現できるというものでもありません。大切なことは、人格を認め合う学級集団をどう作りあげるかということだと思います。一方で、学級定数の引き下げについては、前述のとおり国、府に要望いたします。</p>
6	11	<p>第4章 基本方針 1 「生きる力」を身につける教育を推進します</p>	<p>1-（1）「確かな学力を身につけさせます 現状と課題」にもあるように、「自分の考えを発表する機会がよくある」「自分で課題を立てて解決する」「自分に良いところがあると思う」などの項目で評価が低いのはなぜなのか検討しましたか。この（案）を読ませていただいて、子どもたちの人格が尊重され、学校で丸ごと受け止めてもらっているのかと不安に思えてなりません。</p>	<p>教育委員会としても、特に課題だととらえている資料を掲載しています。</p> <p>子どもたち一人ひとりが、いわゆる自己肯定感を持てることが、学力、学校生活の向上の基盤になると考えています。現在、藤井寺市学力向上推進支援事業や各校で行われる研究会等の場を通し、教師の講義型授業形態から子どもが考えて活動する課題解決型学習への転換の必要性を指導しています。また、授業や学習活動、部活動の中で、成功体験や失敗体験を通し、一人ひとりの子どもが自らの役割を果たしたり、互いに認め合ったり、励まし合ったりする集団づくりの重要性等、自己肯定感の醸成を図るよう指導しています。</p>
7	16	<p>第4章 基本方針 1-（4）小・中学校9年間を見通した教</p>	<p>「経験の少ない教員が増える教員構成」について、経験も重要ですが、先生方が忙しすぎるのではありませんか。先生方が研究や意見交換の時間が持てて、子どもとむきあい保護者</p>	<p>教員の仕事は、子どもや保護者の信頼を得るためということで、予定された会議、研究活動、行事等に加え、個人の教材研究、生徒指導対応、宿題やノート指導、日記指導、それ</p>

		育を推進します	とも連携がとれるよう、教職員の配置基準を増やすことを考えてください。	に校務分掌や所属する研究団体の職務等、個々の教員の取組みに多少の差はありますが、確かに忙しい状況にあります。さらに、中学校では部活動の指導もあります。学校では、子どもと向き合う時間の確保のために、会議を減らす工夫や校務のスリム化を図り、教材研究等に充てる時間の確保に努めています。教育効果を考えた上で、職務の整理統合やICT機器の有効活用も検討する必要があります。教職員の配置基準を増やすことについては、今後とも国、府に要望してまいります。
--	--	---------	------------------------------------	--